

令和3年度自主防災組織アンケート 概要

自主防災組織数	354
回答数	284 (70組織が回答)

①防災訓練実施状況	組織数	分母
実施組織数	133	284

②防災訓練開催方法(複数回答あり)	組織数	分母
地区住民のみで実施	87	133
地区内の防災指導員を活用	20	133
市へ講師依頼	33	133
その他講師依頼	13	133
その他	16	133

③訓練内容(複数回答あり)	組織数	分母
初期消火訓練	31	133
避難訓練	31	133
救命救急訓練	13	133
炊き出し訓練	13	133
避難所運営訓練	28	133
安否確認訓練	75	133
防災講話	38	133
その他	33	133

④防災倉庫の点検	組織数	分母
実施組織数	240	284

⑤資機材購入補助希望	組織数	分母
希望組織数	119	284

⑥防災マップ	組織数	分母
作成済組織数	109	284

⑦研修会実施時期	組織数	分母
希望組織数	94	284
4-5月	8	94
6-7月	43	94
8-9月	9	94
10-11月	20	94
12-1月	14	94

○令和3年度アンケート結果 自由記載欄(抜粋)

1 コロナ関係

- ・昨年はコロナウィルスで中止になりました。今年度はぜひやりたいと思います。
- ・コロナ禍で防災訓練実施出来ませんでした。
- ・コロナで役員のための集まりとなっています(総会に向け)
- ・新型コロナウイルス感染の為に防災活動が出来ていない。2月、3月、5月の地震の時、地区内の住民の安否確認を行いました。
- ・今年度昨年度とコロナ感染対策により事業そのものを自粛している状況である。
- ・この2年間新型コロナウイルス感染拡大により、各種、事業イベントが全て中止となり皆さん物足りなさを感じている。
- ・コロナ終息後は皆さんで集まり、初歩的で良いので、安否確認訓練等皆さんで災害に備えて行いたいものです。
- ・コロナが終わってからしか動けません。
- ・コロナにより活動が制限されている。こういう状況での防災活動の方法(仕方)も考えてはどうか？

⇒対応・検討事項

- ・**コロナ禍での防災活動については防災安全課および、各総合支所地域振興課へご相談ください。**

2 訓練関係

- ・今年度(R4)訓練を予定しているのでご協力、御指導宜しくお願い致します。
- ・近年はコロナ等により難しくなっているが、行政として隔年でも良いので市民を対象とした防災訓練を是非検討してほしい。
- ・コロナ対応の避難所運営について、座学と現場対応について二本立てで実施してほしい。
- ・当地域は独特な集落。集合住宅と言う一般の集落と条件の違いがあるので地域の立地、状況に合った訓練方法、内容を考えてほしい。
- ・令和3年度は震度5の地震があり、安全旗の提示が定着してきています。安否確認に大変役立っています。
- ・松山では3年に一度は松山地域防災訓練参加します。2年間は行政区で安全旗提示訓練、安否訓練を実施したいと思っています。
- ・※コロナ以降炊き出し訓練等地区での総合的訓練は実施していません。早く実施できる日を望んでいます。
- ・三本木支所での訓練は、毎年9月第2日曜日と設定しています。各地区では、大雨時の避難場所への移動と避難場所までの道路の問題が多いのです。私たち南新町地域は、山手の団地で大雨ではソーラー発電ののり面で荒川隧道前の農業用水路が溢れて、幾度か床下浸水が有るための苦情があります。火災、暴風、雪害で通勤道路確保が毎年心配です。
- ・道路の段差が多いので高齢者の方々は苦慮しています。
- ・松山地域の訓練実施が6月に予定されていますが、地区住民には関心がうすれてきている。(中心部での開催)
- ・防災訓練もマンネリ化している感じです。積極的に住民が参加できるシステムを考えたい。
- ・安否確認訓練は従来地区内小学生のみ確認。今後安否確認に追加で高齢者対象にしていきたい。民生と共同で。
- ・毎年同様内容訓練であり変化をつけて設定したい。
- ・消防団と共同作業も検討してもいいのではないかな。
- ・防災訓練の内容を検討する時に参考となる事例等、教示願います。
- ・防災訓練を開催しても参加率が低い。個人、個人の防災知識を高める教育方法のやり方が良いのではと思う。
- ・防災訓練はマンネリ化、市の計画は遅い もっと地域の状況にあった指導を望む
- ・区民の命を守るため対策はマップを作成し独自の対策を講じて行く ただ啓蒙運動は続けて行く
- ・当地区は地震には対応できるが水害は少し心配な面もあるが全体が平和ボケしているのでねばり強く指導する。
- ・新型コロナウイルス終息すれば防災訓練したいと思うので訓練する場合は講師お願いします
- ・防災安否確認タオルが必要と思うが、購入方法
- ・訓練は2年3年やれませんでしたので4年度は何とか区会自主防で取り組みたいと思っている
- ・2月28日には「ハザードマップの見方」の学習会を市の防災士を招き実施した(地区振主催)
- ・昨年度から当防災組織内に市営団地が建設されて一昨年合同の避難訓練をしました。連絡体制の方法等今後の課題です。
- ・高齢化が進み、災害時にハザードマップ等を上手に活用出来るか？悩んでいます。
- ・近くに小学校体育館があるので避難場所は小学校校庭と指定している。高齢者が多く度々の訓練はむずかしくなっている
- ・田尻地域では毎年11月に情報収集訓練を実施していますが、マンネリ化しておりますので実態に添った訓練が必要。
- ・幼稚園、保育園、小学、中学更には高校と連携した合同訓練
- ・水害時の対応・行動訓練も必要と思われる。
- ・情報収集訓練について地区内の手順にて実施していますが、一度専門的な観点から訓練について指導して貰えたらと思います。
- ・田尻地域災害情報訓練はかならずやってほしい。沼部ふるさと委員会防災研修会にも参加、これもやってほしい。
- ・以前更新間近に迫った備蓄米の提供を受け訓練時に活用したことがあります。支所単位で廃棄前に要望を取ってほしい。
- ・各親交会での防災訓練は無意味。高齢者世帯が多く、役割分担をしているがいざという時に機能しない。
- ・防災訓練は、大崎市全体ではなく、旧市町及び地区毎に子供たちも含めた避難訓練なども検討が必要ではないか。
- ・炊出し訓練などは必要ない、現状ではコンビニもあり最悪時には行政が調達してくれるし他地域からの応援もある。
- ・現在コロナ禍で大人数での訓練は難しいと思いますので少人数で何かをやってみてはどうでしょうか？
- ・地区での防災訓練については防災士みやぎ、消防署に講師を依頼した。
- ・新型コロナウイルス感染により古川高校を避難場所とする6地区の合同訓練となりました。
- ・地区での防災訓練は6月12日松山地域総合防災訓練にあわせて実施。
- ・少子高齢化の中、防災訓練を行うことがケガ等の危険が高いため実施は難しい。

⇒対応・検討事項

- ・**大崎市総合防災訓練についても悪天候等もあり中止が続いておりますが、次回実施時にはいただいた意見を参考に内容を検討してまいります。**
- ・**地域での訓練内容については、打ち合わせ段階から防災士の方に入っていただくことも可能ですので、ご相談ください。**

3 避難関係

- ・避難場所として岩出山小学校となっているが、金沢地区は水害時には増水時の蛭沢川の橋を渡り避難しなければならない。区域内の旧雇用促進住宅周辺が安全な場所である。検討してほしい。
- ・新しい交流センターを避難所にしてほしい
- ・大崎広域リサイクルセンターを早めに一時避難所に指定願います。
コロナ禍で災害時に炊き出しが困難となるので食糧備蓄を行うよう広報活動してください。
- ・災害は火災だけでなく水害、強風などがあり、常に避難場所を確認する必要がある。水害に対する避難が最も必要と思っている。
- ・避難所までの道路の確保 途中に浸水場所(数箇所)有り
- ・当地区は鳴瀬川沿いにあり大雨等の災害時の避難所への経路が心配。
- ・避難場所に指定され立看板も設置されているが大雨洪水の際には不適なので看板の表示・表現を見直してください。
大雨・洪水の避難場所・避難所として近隣(美里町・涌谷町)に避難できるよう行政間で調整を図ってください。
- ・浸水区域(浸水3～4m)になっているので逃げ遅れや緊急避難用として一時的に避難できる高所の施設を設置していただきたい。
- ・指定避難所が古川第二小学校で、震災の場合は体育館で問題ないが、大雨で洪水被害がでた場合は校舎の上階教室となる。
避難には所持する物もあり交通手段は車を使用するが、経路では、地理的に低いR108と市道いちょう通の交差点を通過するが、冠水被害が起こる所で通行障害もでる。新江合川左岸地域はむしろ東側に避難しながら、R108バイパスの起点からバイパスを通行して、東中学校へ避難した方が安全性も確保できる。この様な対応が可能か臨機応変な指定を検討してほしい。
- ・洪水時ハザードマップで避難所が旧富永小学校二階となっているが、緊急時にすぐ対応できるかが疑問である。
- ・避難指示が出た時高齢者に対してどの時点で避難所に避難させるか。
- ・昼(明るい)ならば避難、指導も楽であるが、夜は厳しいものがある。特に雨中、雪道等マイナス要因が多い。
年に1～2度の訓練が本地区は古工体育館と習慣がついていけばいいが、常に行ける場所ではない。高齢者には習慣づけることが安全の一步である。そのために地区に一つの集会所を設置すべき。避難に於ける、マイナス要因をソフト、ハード面から議論を。
- ・松山地域は指定避難所に行く通路、道路が低く水をかぶり、通るのに困難である(大雨等)
鳴瀬川が氾濫した時、町内で1m以上浸水する行政区内に1m～6m位の印した(水かさ)目印を建ててほしい。
- ・洪水になった際に車輛の高台移転する場所の確保にも検討してほしい。

⇒対応・検討事項

- ・R4年11月に立体駐車場を持ち車両避難できる民間施設と協定を締結いたしました。
- ・いただいたご意見を参考に災害対応を実施してまいります。

4 ハード面整備

- ・大崎市といっても相当広い地域なので、河川の下流部に位置して増水や堤防決壊の危険に備える必要性の高い地域にはそれに応じた予防的事業を、また土砂崩れや土石流のおそれのある地域にはその危険をつねに除去する工事を施工するなど、地域特性に応じた事業をしていただきたい。
- ・江合川の河川敷には柳などの灌木がたくさん生い茂っています。ある地点までは県、それより下流は国(国交省)管轄と区別があるそうですが、大崎市として県なり国なりに除伐を働きかけ、滞りない水流や河川の景観美化に努めていただけないでしょうか。
- ・大江川の改修工事ですが、改修後の当地区の浸水状況(大雨時)について知りたい。
- ・水害に強いまちづくりに努力してください。
- ・地区内を通る牛沢と国道108号線の橋梁は巾3m高さ1.5mと地区内国道の中で最も小さな橋とされますので将来河川氾濫を防ぐ為にも橋の上流部の河川改修工事が必要と思われます。(県土木にも申し出し済)
- ・上野地区は森林が伐採され大雨になると一気に水が出るため土砂崩れ等心配である。
- ・国土交通省では鳴瀬川堤防の拡幅と高くする工事をする予定でしたが、温暖化のため考えつかない水害被害が起る事もあるかもしれません。早めの工事をお願いしたいと思います。
- ・地域の内水対策に関する情報を適宜提供していただくようお願いします。
- ・大雨時の道路の冠水を解消すべく地域内の県道沿いと市道の清掃及びびり型側溝の蓋上げをお願いしたい。
- ・土砂災害警戒区域指定地に隣接する公道及び宅地内建物施設等に対する土砂流出等による被害防止化を防ぐべき、土砂止め施設の設置をお願いしたい。
- ・流域治水の視点から上流地域の森林や荒廃する農地の管理についてこれまで以上の施策の注入が必要と思う。

⇒対応・検討事項

- ・建設部門へ情報共有を行い、災害に強いまちづくりを行ってまいります。

5 研修関係

- ・自主防災組織向けの研修会は2年に1回は実施してもらいたい。
- ・市主催の自主防災組織向けの研修は夜間の研修ではなく日中に開催してほしい。(役員が高齢化しており夜間の出席が大変)
- ・一人暮らし高齢者向けの災害時支援マニュアル等があれば紹介願いたい。
- ・昨年7月に開催された「宮城県自主防災組織リーダー研修会」に参加させてもらいましたが、個々の理解力にも差がありますが、内容的に非常に厳しかった！時間的にも！身近に資料を置き、確認する様にしています。
- ・松山地域総合防災訓練で研修したことをもとに、地区で伝達講習をしている。
- ・常に新たな避難時に必要な想定されるものが考えられた時に間を置かず研修をしてほしいものです。
- ・古川地区、鹿島台地区、松山地区、田尻地区、岩出山地区、鳴子地区に分けて地域にあった研修を望みます。
- ・岩出山地域としては水害が心配されます。特に地震による鳴子ダム等の決壊による水害が心配です。
そこで研修等にダムの視察など身近なものとして感じる企画をしながら防災意識を高めていかなものかと思っています。
例)決壊した場合下流の水位はどうなるのかなど数値で示してもらおう。それに対しての備えを検討してみる
- ・実際に実践し実績を上げている地区で、現地講習会を開き、現地の人々の体験を通じたお話を聞きたい。
- ・被災地施設の見学により、講演会、現地の体験を通じた意識付けができる
- ・避難訓練の手順手法の講習・研修会
- ・参加者が固定しているので、新たに参加者を増やせる内容の研修が必要。基本的なもので、消火器の使い方、人口呼吸法など。

⇒対応・検討事項

- ・令和3年度はマイ・タイムラインに関する研修を開催してまいりましたが、災害への知識、防災意識の向上に務めてまいります。

6 防災無線関係

- ・避難開始するとき、防災無線は雨風で聞こえないし自ら情報を取れにくい高齢者等はどの様にフォローしたら良いのか悩みます。
- ・最近、災害発生のおそれがある台風や大雨などの情報が早め早めに余裕を持って防災無線で周知されるようになってきていて
予め準備しやすいし、対策も取りやすい。
- ・防災無線がほとんど聞き取れない、その対策は？
メール配信等に対応されているが高齢者の多い地域では周知されていない。高齢者から個別受信機の配布が必要である。
- ・大雨での高齢者等の避難指示が放送があり何名か避難所へ誘導したが、障害者の避難については連絡が徹底していないのか
最初受け入れ放送がなく非常に時間がかかった。放送する場合準備を徹底してほしかった。又、危険地域を区切って放送も望む。
- ・北小牛田地区は江合川にそってある場所で前の大雨の時は小牛田、涌谷地区に避難した住民もおりますので、
大雨の時は指定された避難場所に行きたいので早く逃げるためにも防災無線を全戸につけてほしいです。
- ・地域差はあるが駅前周辺住民の最大の関心事は、鳴瀬川決壊恐れがある場合の早期判断、避難、安全確保の保障である。
そのため情報共有をどんな方法で伝達で行うかと具体的に示すことを願います。(豪雨強風時の防災無線は効果無しと心得る)
「防災無線で喚起しました」から早く脱皮し、次の策を模索してください。※各戸に防災無線受信機を設置することも視野に入れる。
- ・水害の時逃げ遅れると避難場所に行けなくなるので全戸に防災無線をつけてほしいです。
- ・防災放送が聞き取りにくい。これでは肝心な時に役に立たない。

⇒対応・検討事項

- ・**防災無線が聞き取りづらいとのご意見を受け、市でも難聴世帯への戸別受信機設置や防災無線の内容をメール配信、
電話確認できるサービスを提供してまいりましたが、既存サービスの周知を図りながら、今後も新たな情報発信手段を含め
検討してまいります。**

7 防災マップ関係

- ・防災マップの作成についてはコロナ禍のため作成時期は未定となっている
- ・当町内では防災マップ作成済ですが作成から8年経ており当時は社会福祉協議会からの助成で作成したが、
今はその助成制度が無くなっており、できれば再作成のための指導、助成をお願いしたい。
- ・市で作成している防災マップの定期的な更新をお願いします。
- ・防災マップの作成について、作成要領など指導をお願いしたい。併せて作成費用の助成があれば助かります。
- ・防災マップ作成にしてもマンパワーの不足
- ・防災マップ作成の際、助成金制度があると作りやすくなります。

⇒対応・検討事項

- ・**地区防災マップに使用する下図(地図)については都市計画課にて提供できる場合もありますので、ご相談ください。**
- ・**防災マップ作成指導についても、防災士の指導など作成補助を行っておりますので、ご相談ください。**

8 組織の内情等

- ・自主防災組織の構成員の入替が全く進んでいない。メンバーの中には死亡した方も数人いる。
今後は区の班長を自主防災組織の構成員にしようと考えている。
- ・地域住民は日中仕事をしており在宅は高齢者の多い行政区である。日中に大災害が起きた場合の対応に苦慮しております。
地域に応じた防災の仕方があると思われるのですが、何か良い方法はないのでしょうか。
- ・役員等なりてがなく事業運営が困難です
- ・自主防災組織に関して住民の意識が極めて低く役員のなり手不足が極めて深刻。※各地域の実情を知りたいです!!(本音で)
- ・若い人達の関心が低く防災訓練に参加する人が少ない。クリーン作戦などでも含めイベントに参加した場合にポイント付与として
買い物等に利用できる様にするなど工夫してほしい。
- ・少子高齢化によって防災各役職の人選にも苦慮します。(他の役員選出と重複してしまう)
- ・当地区の自主防災会の活動については、少子高齢化の進行に伴い、活動そのものが厳しい状況ですので、
岩出山地区自主防災連絡協議会に便乗して行動を共にし人材不足の軽減を図りながら活動しております。
- ・自主防災組織はあるのだが、自治区内の高齢化と組織員が自治会のメンバーを登用しており、
自治会と一緒に仲々機能しないことがあり、少人数でやっていくことが大変困難である。
- ・当行政区は商店街や事業所等が多く共同住宅も多い地域です。その為に自主防災組織メンバーも、世帯数が少ない
戸建世帯中心で結成されています。メンバーも高齢化が進み運営そのものに厳しさが増して来る事を感じている事も事実です。
共同住宅の方は永住性が乏しいので関心が薄くコミュニケーションが旨く取れていません。悩んでおりアドバイスが欲しいです。
- ・行政区が小規模のため高齢化や役員不足でなかなか実施が年々わずかしくなっている
- ・各自主防災組織だけの活動では限界が見えています。活動できるマンパワーもありません。
有事に活動、行動できる連携ができることを事業として進めてほしい。連合組織結成に向けた助言等を行ってほしい。
- ・ここ数年で戸数が激減し、現在9戸となり9戸のうち7戸が75才以上のひとり暮らし、二人暮らしで自主防災組織も消滅状態にあり、
防災訓練、活動はしていません。隣同士で安否の確認と情報の交換を行い、年数回は集会所に集まり情報交換をしている。
- ・当該地区に於いては高齢化が進み自主防災組織を作っても人員不足で担当割れが生じている。地区編成の見直しが必要です。
どの地域にも共通することですが、高齢化が進み振興会関連の各役員の「なり手」が少なく苦慮している現状にあります。
- ・近年、電話帳に固定電話番号を載せない家が多く、携帯電話番号も把握しづらい状況です。
世帯台帳を作成するために収集した個人情報(機微な情報を含む)の法的管理責任について罰則を含めて明記してほしい。
- ・世帯数が300位ですが、アパート、貸家が三分の二をしめ、残りの100世帯でも70～80代の人が多く、協力いだけそうな方々も
仕事で協力できない世帯が多く苦労しています。合同で研修を実施しても良いかと思って居ます。
- ・地区内に集会所がないので、公共施設を借りる必要がありそのわずらわしさから気軽に集まらず、話し合いなどの機会に影響している。
- ・各地域で資機材が足りてとは思われないので今後来る災害に備えたいので多少の予算をつけてほしい。
- ・倉庫が無いので補助をお願いしたい。今年予算にて災害対策用発電機を購入済とした。
- ・各部落に自主防に対して補助金がほしい
- ・活動に対する助成金の支援の充実を計ってほしい。行政区からの助成には限度がある。
- ・民生委員をメンバーに進めているが身体的障害などで要支援の人々に対する避難についてどこまで組織だけでできるか悩む。
- ・以前(14～15年)防災基金として各行政区に県からかは不明だが10万円3年くらい配布された様な気がするがそういった助成金があったら良いと思う。(飲料水とか食料品とか、準備するのが大変である。資機材(発電機等の高額品)の再購入の助成など)
- ・定額的な運営費助成
- ・自主防災組織に対して希望する資材の提供。
- ・防災資機材整備予算の増額を望みます。
- ・東大崎地区では、地区振により情報カレンダーを作成しております。各行政区(自主防災組織)が各月になっており
洪水浸水想定区域が色別され表示されています。このカレンダーも毎年製作するには財政難です。支援補助があると助かる。
- ・資機材の維持管理に対し補助助成事業を検討していただきたい。これを期に地域の活動の活性を計りたい。
- ・資機材購入の補助事業については今後検討していきたい。

- ・**高齢化や一人世帯の増加など社会状況の変化を考慮し、広報やチラシ、webサイト等を通じ、各家庭や個人毎の防災意識の向上にも努
めてまいります。**
- ・**自主防災組織への支援についても今後も引き続き行ってまいります。**

9 消防関係

- ・近年は無いがかつては山火事が発生した(特に春先に)。林野火災についての意識の向上についても取り組みたい。
- ・火災について市を通し消防から講師を呼び意識の向上を図る講義を受けたい。
- ・大崎市消防団整備計画報告書(令和3年10月)において「組織の検討」の項で志田分団一部「飯川下班」と「十文字班」の統合が計画されているが、「飯川下班」の名称を残されたい。
- ・消防ポンプの車の配備について「飯川下班」に軽積載車の配備を願う。
- ・婦人防火クラブへの助成金をアップされたい。
- ・当団地自主防災組織では、地区消防団に加入している団地住民と定期的に打合せ会、防災器具点検に参加してもらうことを計画し、その団員からも了解を得ています。消防団員もベテランではないので、第一歩から(初歩的なことから)始めようと考えています。つきましては参考になることをご教示いただきたい。
- ・高齢人口減少が進んでいます。ポンプ小屋の統合など消防の再編が必要ではないかと感じています。
- ・近年、管理不十分の空き家の火災等が心配されるなど小さな防災にも目を向けてほしい。

⇒対応・検討事項

- ・**消防担当と情報共有の上、適宜対応してまいります。**

10 その他

- ・駅南地区には自主防災組織はありますが、市が指定した地区自主防災組織はありません。市の指導で組成してほしいです。
また、いつ地震が発生するかわかりませんので、市の指導で組織創りをお願いします。
- ・古川学園は防災について協力してくれませんので市の指導で地域の協力をしてもらえよう指導を願います。
- ・大崎市内でおきた災害のDVDがあるといい。
- ・「大江川」「古川江」の「改修整備促進委員会」が結成されたのがうれしい。地区単独ではなく「集団体制」で要望等ができる
- ・防災倉庫の場所について 市庁舎の建替により現場所の変更しなければならず、市担当者と協議したいと思っています。
- ・ハザードマップの色分けが見づらい。標高を表示してほしい。
- ・地区の方で手助けを必要とする人(身障者等)を市で把握している時は知らせてほしい。協力体制をとるためにも。
- ・水害に関する自主防災の役割を整理する必要がある。
- ・防災全般に該当するか否かですが年末年始(1月中)まれにみる大雪で災害(雪害)に見舞われた地区、世帯があると思われますが、防災安全課としてアンケート実態調査を行うべきではないでしょうか。
防災無線にて放送するだけではちょっと悲しい気がします。巡回も必要だったのでは(一人世帯)
- ・震度5強以上報告することになっているが現在では被害発生はみられないため、震度6弱以上としてほしい。
又、荒雄地区は、報告書を本部に持参となっているが、FAX可としてほしい。※では可となっているが、他地区と同等としてほしい。
- ・事業を実施された折、その都度の反省・評価はなされていますか。
- ・現実在即した(人員等で)防災計画の作成事例があれば開示してほしい
- ・女川原子力まで約40kmです。女川原子力で災害が発生したときの対応が不明確です。
放射能なので「津波でんでんこ」とはならないと思います。
- ・区のタイムラインでは台風がくる半日前/1日前と各人が取るべき行動を示しているが徹底しないのが現状である。
- ・行政区域(2以上)を超えた広域的モデル地域を指定するなどあらたな取組をする自主防災組織の育成強化

⇒対応・検討事項

- ・**ご意見いただいたものの中で対応可能なものから実施してまいります。**